



## 高みを目指して！

日本人は昔から几帳面で真面目です。島国という特殊な地理条件から、長い間海外との交流が絶たれ、独自の文化が発達したように感じています。どこの国もそれぞれの文化が発達していますが、日本人のそれは特にではないでしょうか。

さて、楡形地区では小中一貫校として、いくつかの共通した取り組みを行っています。「無言清掃」や「はき物をそろえる」等です。これは、中学校に進学しても同じ取り組みを経験したことで、新たな指導が必要ないことや、進学後の小学校間の意識の違いをなくすためでもあります。

今回はその中の「はき物をそろえる」ことについてお伝えします。元々は長野県長野市の円福寺の御住職だった「藤本幸邦さん」が作った「はきものをそろえる」という詩がもとになっています。私も小さい頃、躰として「脱いだ服はたたむ」とか「玄関の靴はそろえる」など、親に言われていたことを思い出します。日本ははき物を脱いで生活する文化なのですが、人が集まる場所やトイレでの履き替えなど、脱いだはき物がそのまま放置されていることを目にすることがあります。小笠原小がそういう現状にあるわけではありませんが、日頃からの心構えとして更なる高みを目指していきたいと思い、取り組んでいます。はき物をそろえると言うことは「自分自身を見つめる」とか「自分の行いを振り返る」とうことに繋がっています。また、自分のはき物をそろえることはもちろんのこと、ちょっと周りのはきものにも気配りや心配りができるような心を育てていきたいと願っています。そろえることによって見た目にも美しく、心が落ち着いた生活にも繋がっていきます。実際に取り組みが始まって数年経ちますが、朝登校した後に自分の靴をそろえる姿を目にしていますが、周りまではまだ目が行き届かないみたいです。今後も、今以上に意識することで、時間だけではなく、心のゆとりも生み出せるようになることを願っています。もちろん低学年の子どもたちも、意識してそろえられるようになってきています。これからは下駄箱に限らず、どんな場所でも「はき物を脱いだらそろえる」ことが意識してできるよう、取り組みを続けていきたいと思えます。

当たり前のことを当たり前として取り組むことはもちろん、その当たり前をちょっと質の高い当たり前をめざすことによって、私たちの生活は格段に豊かになり、お互いの立場を理解し支え合いながら生活できるようになります。新しい小笠原小をめざして！



暑さが厳しくなってきました。毎日の暑さ対策をお願いします。特に、**マスクを外すこと、帽子をかぶること**については、学校でも積極的に指導をしていきます。御家庭でもこの二つのことについてはお子さんと話をしていただき、子供たちの健康の保持増進に御協力をお願いします。また、日焼け止めの使用も認めていますが、無香料の物にしてください。